

度が北緯61度と日本の北端の稚内(北緯45.2度)と比較してもかなり高いことから、想像できよう。また、写真-8に示すように、青、白、桃色のルピナスが至る所に雑草のごとく咲いていたのが印象的であった。見た目では、ヨーロッ

パ原産の *Lupinus hirsutus* とは形状が幾分異なることから、アメリカ原産の *Lupinus polyphyllus* の園芸種がエスケープし野生化したものと思われた。

帰化植物メモ

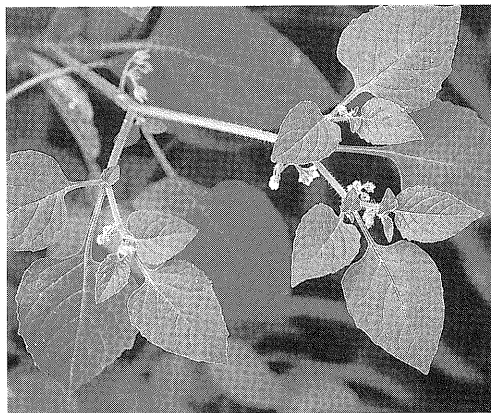
最近、栃木県那須地方の飼料作物畑でイヌホオズキ類の発生が目立つようになった。イヌホオズキ、アメリカイヌホオズキは勿論、比較的新顔のケイヌホオズキも多く発生している。今回はこのケイヌホオズキを紹介する。

●ケイヌホオズキ [ナス科]

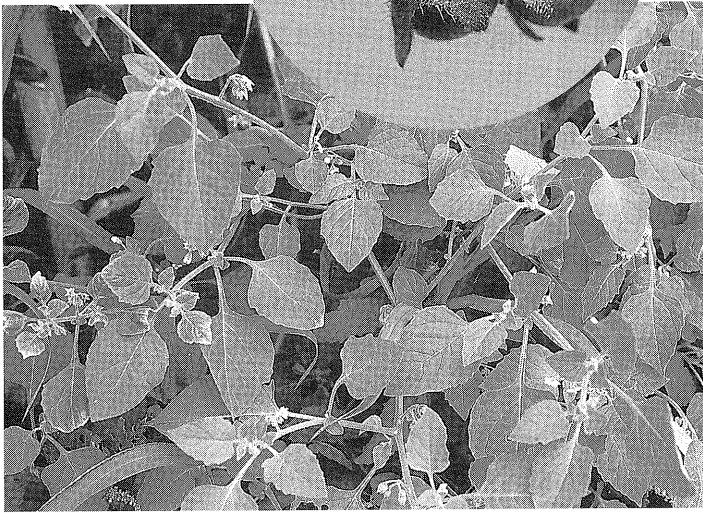
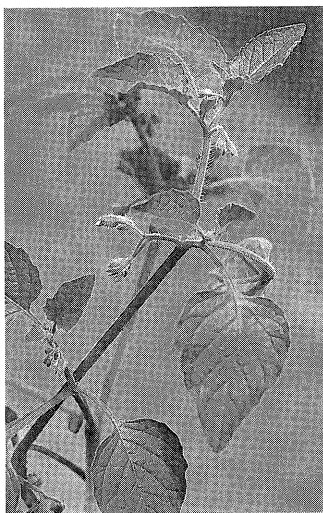
Solanum Sarachioides Sendtner

1年草。茎はよく分枝して斜上し、高さ20～50cmになる。葉身は卵形で長さ2～6cm、幅2～5cm、先は尖り、基部は広い楔形で短く葉柄に流れ、葉身基部は左右が食い違う。茎・葉、葉柄など全体に白く短い軟毛と腺毛が密布し、触ると粘った感じがする。花期は6～10月、2～7個の白い花を下向きにつける。

イヌホオズキなどナス科の植物にはソラニンなど有害物質を含んでいて、家畜が食べると流涎、運動失調、痙攣、昏睡などの中毒症状等が現れることがある。(廣田伸七)



▲花序



▲ケイヌホオズキ成植物。円内は果実